



2026年 8月 6日
第15号

JR東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

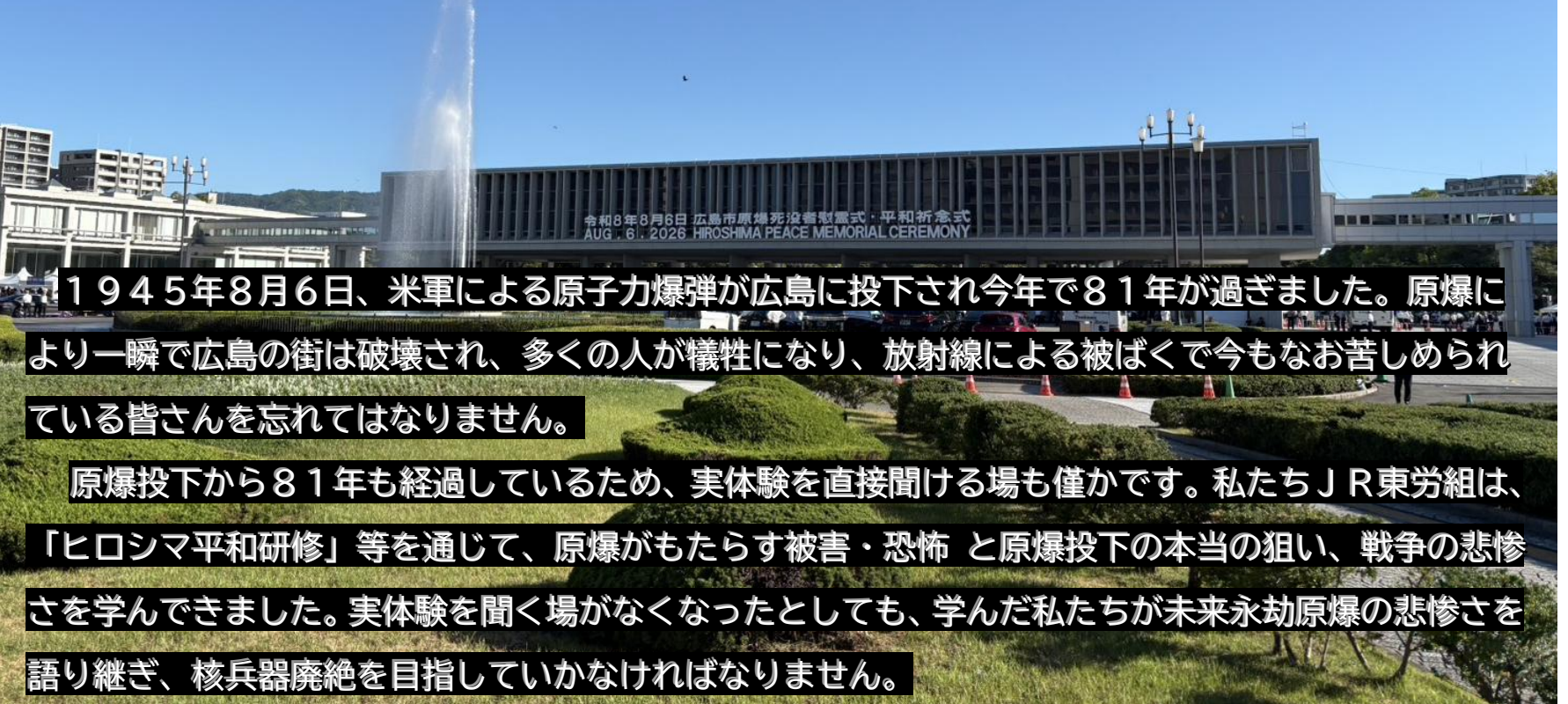
編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp>



原爆投下から81年の広島



1945年8月6日、米軍による原子力爆弾が広島に投下され今年で81年が過ぎました。原爆により一瞬で広島は破壊され、多くの人が犠牲になり、放射線による被ばくで今もなお苦しめられている皆さんを忘れてはなりません。

原爆投下から81年も経過しているため、実体験を直接聞ける場も僅かです。私たちJR東労組は、「ヒロシマ平和研修」等を通じて、原爆がもたらす被害・恐怖と原爆投下の本当の狙い、戦争の悲惨さを学びました。実体験を聞く場がなくなったとしても、学んだ私たちが未来永劫原爆の悲惨さを語り継ぎ、核兵器廃絶を目指していかなければなりません。

広島市長は平和宣言の中で、今年開催されたNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議で過去2回に続き成果文書が不採択となったことに触れ、「核兵器の非人道性を軽視し、自国の繁栄のための武力行使を認めることは、暴力を伴う報復の連鎖を許容し、第三のヒロシマ・ナガサキを作り出すことになりかねません。」と危機感を表明し、日本政府に対しても粘り強い外交に徹する中で、国際社会の平和と安定に向けて貢献し続けることを表明し実行すること、今年11月から開催される核兵器禁止条約の再検討会議へのオブザーバー参加し一早く締結すること、平均年齢が86歳を超えた被爆者の具体的な支援策などを求め、次代を担う若い世代に対しても、「価値観の異なる人々との国境を越えた交流を深めてください。そうすることで、嬉しさや楽しさ、夢や希望を共有することができます。既に世界の多くの若者が、広島を始め様々な場で被爆の実相を学び、交流を深めています。皆さんも平和のために日常生活の中でできることを実践し、自らの思いを発信することで、その行動の輪を広げていってください。」と語りかけるように挨拶しました。

子ども代表の平和への誓いでは「相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。一人一人の小さな行動が、平和への後押しとなります。平和とは、誰かからあたえられるものでなく、世界中の人々で創り上げるものです。」と、私たち一人ひとりに対して平和への考え方と行動を訴えました。

私たちJR東労組は、戦争を引き起こすのは国家間であり、それを食い止めるためにも市民と労働者の国際連帯の輪を広げてきました。より多くの市民と労働者と連帯して戦争のない社会を実現していきましょう！



**原爆の悲惨さ、核兵器の恐ろしさを学んだ私たちが
平和であり続けるために何ができるか考えよう！**

